

教育再生を聞く

国際教養大学長
中嶋 嶺雄氏



なかじま・みねお 65年
(昭40年)東大院修。社会学博士。東京外語大教授、学長。04年から国際教養大学長。長野県出身、70歳。

ばならない」

——主査を務める中央

教育審議会(中教審)外

国語専門部会で提案した

小学校での英語必修化に

る。ゼロサムゲームでは

ない。保守派の知識人に

国語が大事だという意見

が多いが、僕も保守派。

日本を大事にするなら外

のはものすごい損失だ。

これまでの英語教育を根

本的に変えるわけだから

抵抗があるのは当然だ

が、それをやらないと日

り出しやすい。社会全体

の改革が必要だが、首相

にぜひやってもらいた

い」

——教育再生会議で議

異文化理解、子供のうちに

と文部科学省の縄張り争いもあり、人間形成の一環としてとらえられてこ

なかった。知育、德育、

体育に加え、感性教育と

ない。英語をつまぐ導入

異文化理解のための教育

は子供のうちにしなければ

は異論が出ている。

「英語をきちんと勉強

することは決して国語を

おろそかにすることでは

べても学生の英語力は弱

い。十年間学んできたも

国人に日本を表現できな

ければならない」

「アジアの周辺国と比

べても学生の英語力は弱

い。十年間学んできたも

のが使えない。そんなこ

入学も提唱した。

「グローバルスタンダ

ードに沿ったものではす

く魅力的だ。高校生留学

をして六月ごろ帰って

科省と日教組のイデオロ

ギー論争になりがちだ

た。そんなことをやって

いるのは日本だけだ。官

僚的にモタモタやってい

るわけにはいかない。教

政府の教育再生会 任せの家庭にある。安倍
議の一員として教育の現 晋三首相もしつけや規範
状をどうみるか。 の重要性を訴えている
「教育崩壊はかなり深 が、幼児教育の立て直し
刻だ。一番の原因は学校 こそ必要だ。厚生労働省

は子供のうちにしなければ

りすることにもつながら

とを全国民に強いている

を受けて入れやすいし、送

論をしていきたい」